

平成20年度

事業報告書

自：平成20年4月1日

至：平成21年3月31日

学校法人 千葉学園

I. 学校法人の組織

1. 設置する学校・学部・学科等

千葉学園 市川市国府台 1-3-1	千葉商科大学大学院 市川市国府台 1-3-1	博士課程	政策研究科
		修士課程	商学研究科
			経済学研究科
			政策情報学研究科
	専門職学位課程	会計ファイナンス研究科	
	千葉商科大学 市川市国府台 1-3-1	商経学部	商学科
			経済学科
			経営学科
	政策情報学部	政策情報学科	
	千葉商科大学附属高等学校 市川市中国分 2-10-1	全日制	普通科
商業科			

2. 学部・学科等の入学定員及び学生数

	学部等	学 科	入学定員	学生・生徒数
千葉商科大学大学院	博士課程	政策研究科	20名	44名
	修士課程	商学研究科	10名	18名
		経済学研究科	10名	16名
		政策情報学研究科	10名	7名
	専門職学位課程	会計ファイナンス研究科	70名	88名
	計		120名	173名
千葉商科大学	商経学部	商学科	400名	1,848名
		経済学科	400名	1,810名
		経営学科	400名	1,718名
	政策情報学部	政策情報学科	200名	920名
	計		1,400名	6,296名
千葉商科大学 附属高等学校	全日制	普通科	235名	777名
		商業科	40名	142名
		計		275名
合 計			1,795名	7,388名

(注) 学生・生徒数は、平成20年5月1日現在の数である。

II. 役員、評議員及び教職員の概要

【理事長】 原 田 嘉 中
 【常務理事（財務担当）】 浅 井 和 彦

【理 事】 麻 生 幸 齊 藤 壽 彦 森 久 人
 金 指 茂 信 島 田 晴 雄 矢 坂 新 一
 熊 岡 洋 一 瀧 上 信 光 吉 田 興 一
 小 山 敬次郎 千 葉 光 行

【監 事】 小 嶋 清一郎 森 嶋 庸 吉

【評議員】 麻 生 幸 齋 須 貞 文 長 島 洋 三
 井 桁 和 夫 齋 藤 精一郎 中 津 攸 子
 伊 藤 雅 敏 齋 藤 武 捷 鳩 貝 次 男
 内 田 茂 男 島 田 晴 雄 原 田 嘉 中
 遠 藤 伊 助 高 橋 伸 治 平 野 隆 之
 鹿 嶋 研之助 高 柳 實 三 浦 英 之
 川 瀬 昇 田 口 堯 御園生 隆
 熊 岡 洋 一 千 葉 光 行 森 久 人
 栗 林 隆 露 崎 洋 吉 田 優 治

【教職員数】

		法 人	千葉商科大学	千葉商科大学 付属高等学校	計
教 員	専任教員		136名	36名	172名
	教授（教諭）		95名	36名	131名
	准教授		26名		26名
	専任講師		15名		15名
	非常勤講師		360名	26名	386名
	計		496名	62名	558名
職 員	専任職員	10名	88名	5名	103名
	臨時職員	4名	36名	6名	46名
	計	14名	124名	11名	149名
合 計		14名	620名	73名	707名

（注）教職員数は、平成20年5月1日現在の数である。

III. 平成20年度事業の概要

1. 法人関係

(1) 学校法人千葉学園戦略会議

常任理事会の機能を高め、意思決定から執行までの迅速性を高めるとともに、学園全体の将来展望を見据えた戦略を構想し、実現することを目的として、平成19年4月に設置され、平成20年度は10回開催した。

(2) CUC発展戦略委員会

戦略会議で決定した事項を早期に実現するため、平成 20 年 2 月に CUC 発展戦略委員会を設置した。平成 20 年度は、体育会活動の支援と強化、学生生活支援、就職支援、応募者開拓を中心に、必要に応じてプロジェクトを編成して具体案の検討を進めた。

(3) 資金運用委員会

財政改革の一環として資金運用戦略の抜本的な見直しを行い、財政基盤強化のための財源確保に向けて取り組むため、平成 19 年 12 月に資金運用委員会を設置した。これに伴い、資金運用管理規程及び資金運用委員会規程を制定し、運用体制を整備した。

(4) 第三者認証評価

① 平成 20 年度に財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受け、平成 21 年 3 月 24 日に、同機構が定める大学評価基準を満たしている、と認定された。認定期間は、平成 20 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの 7 年間である。

② 専門職大学院は、平成 20 年度に会計大学院評価機構による認証評価を受けた。

(5) 千葉商科大学創立 80 周年記念事業

① 5 月 25 日（日）に 7 号館 702 教室において創立 80 周年記念式典を執り行った。式典終了後、体育館アリーナにおいて祝賀会を行った。

② 5 月 25 日は記念式典に先立ち、記念植樹及びタイムカプセル埋納式、並びに市川市と本学との包括協定締結式を行った。

③ 創立 80 周年を記念して、5 月 24 日（土）、本学の国際交流提携校である上海立信會計学院唐海燕学長及び鄧小洋教授による記念講演会を開催した。

(6) 事務局組織の再編

サービス創造学部の開設及び業務の効率化の観点から、事務局組織の再編を図った。

2. 大学関係

(1) 教学関係

ア. サービス創造学部の開設

応募者を開拓し、時代のニーズに沿った学部を創設するため、商経学部の入学定員を 200 名削減し、入学定員 200 名のサービス創造学部を開設した。

イ. 商経学部入学定員の変更

商経学部は、サービス創造学部の開設に伴い、入学定員が 200 名減少することから、平成 21 年度入学試験より、商学科 420 名、経済学科 300 名、経営学科 280 名で学生募集を行った。

ウ. ユニバーシティ・アワー

平成 20 年秋学期より、金曜日の第 2 時限に全学の学生を対象にユニバーシティ・アワーを開催した。第 1 回は 10 月 17 日に開催し、千葉光行市川市長が講演を行った。以後、アジア学生交流会議（GPAC）報告会、CUC アライアンス企業との交流等、年に 7 回開催した。

エ. カリキュラム改革

商経学部は、三学科制、三言語主義、複数専門制、ゼミナール制、キャリア教育の重視という従来の基本的教育システムは堅持しながら、面倒見のよい大学作りを目指して大幅なカリキュラム改革を行い、平成 21 年 4 月から実施することとなった。

政策情報学部は、平成 19 年度からカリキュラムを抜本的に改革し、4 つのコース制（政策経営、環境、IT 社会基盤、文化・表現メディア）を導入している。

オ. 熱血講座の開設

本学 O B で社会の第一線で活躍している方に、経営について自分の体験を学生に熱く語ってもらうため、平成 20 年度から「熱血講座」を開設した。

カ. 採用内定取り消し等による卒業延期制度の導入

企業等から採用内定等の通知を受けていたにもかかわらず、企業の経営状況の悪化などの理由により、採用内定取り消し又はこれに準ずるような対応を受けた学生を救済するため、本人の申し出により6カ月又は1年間の卒業延期を認める制度を創設した。

(2) 広報活動関係

ア. 学報「治道家」を企画・編集

イ. 大学入試説明会の開催

高校教師への情報提供及び連携を密にするため、5月に本学で説明会を開催した。

ウ. オープン・キャンパスの実施

受験生への情報提供及び大学のPR活動の一環として、オープン・キャンパスを8回実施した。参加延べ人数は、4,482名であった。

エ. 高校訪問、高校への出張講義、進学相談会、高校内ガイダンスへの参加

オ. 受験生向け印刷物及び雑誌等の掲出

(3) 国際交流関係

ア. 在外研究員等の派遣

長期推薦在外研究員として、商経学部の教員2名を1年間派遣した。また、長期公募在外研究員として政策情報学部の教員1名を1年間派遣した。

イ. 夏期海外語学研修の実施

ハワイ大学

期 間：平成20年8月24日～9月14日・参加者：10名

ウ. 国際交流提携校からの留学生の受け入れ

漢陽大学

1名を商経学部経済学科に交換留学生として、11ヶ月間受け入れた。

上海立信会計学院

2名を政策情報学部政策情報学科に交換留学生として、4ヶ月間受け入れた。

上海立信会計学院

9名を日本語短期研修として、平成21年1月9日から1月22日まで受け入れた。

上海立信会計学院

11名を政策情報学部政策情報学科に本科交換留学生として平成20年10月から9ヶ月間受け入れ中。

エ. 国際交流提携校へ留学生の派遣

漢陽大学：1名を交換留学生として13ヶ月間派遣した。

(4) エクステンション事業関係

ア. 地域住民向け企画

①CUC SUMMER JAZZ

7月に開催。聴衆は約300名。

②いちかわユニバーシティフォーラム

3月に「つながるまちづくりで新しい文化を」をテーマに討論会を行った。参加者は10名。

③CUC公開講座

「「デュボワ思考法」新しいキャリアの構築法に触れてみよう」をテーマに10月に開催。参加者は60名。

イ. 社会人・実務家向け企画

①CUC中小企業マネジメントスクール

『100年超企業に学ぶ経営革新』をテーマに中小企業の経営者、本学学生を対象に

実施。本スクール修了生の勉強会＝生々塾が募集等協力。5月～1月まで全8回開催。受講者は52名。

②起業スクール

事業計画書作成を目的とし、企業社会のルールなどを学ぶ。

(基礎編) 5月～9月まで全4回開催。受講者は32名。

(実践編) 10月～1月まで全4回開催。受講者は8名。

③もう一度青春夢キャンパス

「ヨーロッパ音楽巡り」外国会話を学びさらにその国の歴史や文化も含め幅広く理解する事を目指した講座。

(前期) 5月～8月まで全12回開催。受講者は8名。

(後期) 10月～1月まで全12回開催。受講者は13名。

ウ. 小・中学生向け企画「CUCキッズ大学」

①キッズ英会話スクール(1～3年生クラス・4～6年生クラス)

(前期) 7月に全5回開催。受講者10名。

(後期) 12月に全5回開催。受講者45名。

②親子でボイストレーニング

7月に全2回開催。受講者5名。

③親子で三角ベースボール

7月に開催。受講者5名。

④テニス

1月に全3回開催。受講者59名。

⑤卓球

12月に全3回開催。受講者は32名。

⑥キッズビジネスタウンいちかわ事前教室

2月に全4回開催。受講者3名。

⑦キッズビジネスタウンいちかわ

3月7日(土)、8日(日)全2回を千葉商科大学キャンパス内で小学生以下の児童を対象に開催。本学学生が委員会を結成し半年間かけて企画・運営を担当。入場者は延べで826名(参加児童のみ)。

エ. 委託業務プログラム

①いちかわ市民アカデミー

市川市教育委員会生涯学習振興課からの委託業務。6月～2月まで全10回開催。受講者55名。

②えどがわ商店街産学公連帯プログラム

江戸川区商店街連合会小岩南支部をモデル商店街として、商店街活性化をはかるため「産学公連携プロジェクト」を推進。学生は現地調査や商店街活性化策の提案などで協力している。

オ. 中学校高等学校社会科・公民科教員のための経済サマーセミナー

8月に全6回を中学高校の社会科・公民科教員を対象に本学教員が講義し、受講者と講師が協力教材開発研究するプログラム。受講者は85名。

カ. 水曜新聞DAY

読売新聞、日本経済新聞、朝日新聞、千葉日報の各紙協力により毎週水曜日に学内にて200部無料配布。(延べ26回実施)

キ. コミュニティー誌への寄稿

市川「相田みつをギャラリー」を運営するグランパが発行する地域紙。本学教職員が

毎月エッセーを寄稿。(毎月発行、発行部数 16,000 部)

ク. CUCストリートミュージシャンの夢舞台

毎週水曜日の昼休み学内キャンパスにおいて、将来有望なストリートミュージシャンに歌唱・演奏の機会を提供し、大学全体で応援。学生スタッフにより企画運営。

ケ. CUC New Year Concert

1月に開催。参加者は約 300 名。

(5) キャリア教育関係

ア. トワイライトコース

本学学生を対象に、日商簿記検定(1級～3級)、語学(TOEIC、英検準2級)、色彩検定講座(AFT 色彩検定2級～3級コース)、ファイナンシャル・プランニング技能士試験対策講座(2級～3級)、証券外務員二種講座、宅地建物取引主任者試験対策講座等の講座を開設した。

また、就職活動のための公務員採用試験対策講座(市役所・警察・消防コース)、一般企業試験対策講座(SPI&就職マナー講座)を開設した。

イ. 学内会社説明会の実施

キャリア教育センター主催による本学4年次生を対象とした学内会社説明会を、6月と10月に計7日間、開催し、373名の学生が参加。

また、本学3年次生を対象とした学内会社説明会を、12月、1月、2月に合計10日間、開催し、615名の学生が参加。

ウ. キャリアアップ科目群の講座開設

エ. インターンシップの実施

オ. キャリアデザイン・進路相談・就職カウンセリングの実施

キャリア・就職カウンセリングルームにおいて、毎週月曜日から土曜日の13時から16時までキャリアカウンセラー及びキャリア教育センター委員会の教員と職員が学生の相談に応じている。

カ. CUCアライアンス企業とのネットワーク形成と相互交流の実施

本学と企業との社会的役割として、人材教育と人材確保の両面を充実するために実施。

キ. キャリア・カフェの実施

キャリア教育センターの利用促進等のため、広報活動の一環としてキャリア・カフェを7月より実施した。

(6) 施設・設備関係

ア. 図書館空調設備更新(第2期)

空調設備老朽のため、第2期工事として、屋内機・屋外機の更新を行った。

イ. ピッチング練習場、ゴルフアプローチ練習場の新設

合宿所南側にピッチング練習場及びバンカー練習ができるゴルフアプローチ練習場を新設した。

ウ. 校内喫煙所整備工事

2号館、体育館脇にカプセル型喫煙所を新設した。また、3・4号館のピロティの一部を喫煙所に改修した。

エ. 学生会館ボイラー設置工事

学生会館専用の暖房用ガスボイラーを新設した。

オ. 校内放送設備改修工事

本館から学内ほぼすべての建物及び外部に一斉放送ができるように、放送設備を改修した。

カ. 学生会館化粧室リニューアル

老朽化のため、男子用化粧室5カ所、女子用化粧室2カ所のリニューアル工事を行った。

3. 附属高等学校

教学関係

- ・特待生奨学金制度

今年度は22名が奨学金を受けた。

IV. 財務三表過去3年度（平成18年度～平成20年度）の経年推移

【資金収支計算書】

(単位：千円)

科 目	平成18年度	構成比	平成19年度	構成比	平成20年度	構成比
学生生徒等納付金収入	6,156,911	50.0	5,895,082	46.9	6,144,648	45.6
手数料収入	96,571	0.8	106,308	0.8	114,319	0.8
寄付金収入	13,700	0.1	69,197	0.5	7,087	0.1
補助金収入	660,056	5.4	711,457	5.7	716,367	5.3
資産運用収入	147,681	1.2	174,525	1.4	264,449	2.0
資産売却収入			34,200	0.3	98,133	0.7
事業収入	25,927	0.2	29,257	0.2	30,793	0.2
雑収入	173,395	1.4	422,205	3.4	253,435	2.0
借入金等収入			158,000	1.3		
前受金収入	2,626,748	21.3	2,706,388	21.5	2,727,224	20.2
その他の収入	497,596	4.0	449,798	3.6	1,304,056	9.7
資金収入調整勘定	△3,145,452	△25.5	△3,064,159	△24.4	△2,931,888	△21.8
前年度繰越支払資金	5,066,058	41.1	4,882,010	38.8	4,750,283	35.2
収入合計	12,319,191	100.0	12,574,268	100.0	13,478,906	100.0
人件費支出	4,329,870	35.1	4,541,282	36.1	4,331,674	32.1
教育研究経費支出	1,612,927	13.1	1,623,535	12.9	1,509,223	11.2
管理経費支出	483,766	3.9	514,755	4.1	586,616	4.4
借入金等利息支出	31,038	0.3	25,978	0.2	19,040	0.1
借入金等返済支出	155,530	1.3	99,980	0.8	310,170	2.3
施設関係支出	233,765	1.9	565,064	4.5	245,975	1.8
設備関係支出	94,425	0.8	119,233	1.0	83,056	0.7
資産運用支出	456,000	3.7	400,000	3.2	2,779,459	20.6
その他の支出	115,080	0.9	118,351	0.9	188,906	1.4
資金支出調整勘定	△75,220	△0.6	△184,193	△1.5	△170,666	△1.3
次年度繰越支払資金	4,882,010	39.6	4,750,283	37.8	3,595,453	26.7
支出合計	12,319,191	100.0	12,574,268	100.0	13,478,906	100.0

【消費収支計算書】

(単位：千円)

科 目	平成18年度	構成比	平成19年度	構成比	平成20年度	構成比
学生生徒等納付金	6,156,911	84.7	5,895,082	79.2	6,144,648	81.5
手数料	96,571	1.3	106,308	1.4	114,319	1.5
寄付金	18,193	0.3	72,263	1.0	13,322	0.2
補助金	660,056	9.1	711,457	9.6	716,367	9.5
資産運用収入	147,681	1.9	174,525	2.3	264,449	3.5
資産売却差額			29,400	0.4	7	0.0
事業収入	19,051	0.3	29,257	0.4	30,793	0.4
雑収入	173,395	2.4	422,205	5.7	252,926	3.4
帰属収入合計	7,271,858	100.0	7,440,497	100.0	7,536,831	100.0
基本金組入額合計			△98,038	△1.3	△393,402	△5.2
消費収入合計	7,271,858	100.0	7,342,459	98.7	7,143,429	94.8
人件費	4,287,016	58.3	4,508,456	59.9	4,323,156	58.8
教育研究経費	2,469,127	33.6	2,426,102	32.2	2,314,602	31.5

管理経費	552,295	7.5	567,023	7.5	643,972	8.8
借入金等利息	31,038	0.4	25,978	0.3	19,040	0.3
資産処分差額	11,000	0.2	4,889	0.1	47,533	0.6
徴収不能額			447	0.0	211	0.0
徴収不能引当金繰入額			124	0.0		
消費支出合計	7,350,476	100.0	7,533,019	100.0	7,348,514	100.0
当年度消費収支差額	△78,618		△190,560		△205,085	
前年度繰越消費収支差額	△2,995,789		△3,033,469		△3,224,029	
基本金取崩額	40,938					
翌年度繰越消費収支差額	△3,033,469		△3,224,029		△3,429,114	

【貸借対照表】

(単位：千円)

科 目	平成 18 年度	構成比	平成 19 年度	構成比	平成 20 年度	構成比
固定資産	37,839,002	88.0	37,858,447	87.9	39,103,159	91.0
有形固定資産	25,636,746	59.6	25,462,873	59.1	24,938,496	58.0
土地	8,246,917	19.2	8,246,917	19.1	8,301,555	19.3
建物	12,699,232	29.4	12,596,552	29.3	12,063,737	28.1
構築物	470,859	1.1	403,618	0.9	389,831	0.9
教育研究用機器備品	638,450	1.5	579,191	1.3	490,439	1.1
その他の機器備品	30,234	0.1	24,282	0.1	19,985	0.0
図書	3,551,054	8.3	3,612,313	8.4	3,672,949	8.6
その他の固定資産	12,202,256	28.4	12,395,574	28.8	14,164,663	33.0
土地拡張引当特定預金	408,000	1.0	408,000	0.9	354,000	0.8
建物新築引当特定資金						
学園拡充資金引当特定資産	436,000	1.0	250,000	0.6	250,000	0.6
第3号基本金引当資産	2,363,163	5.5	2,363,163	5.5	2,363,163	5.5
その他	8,995,093	20.9	9,374,411	21.8	11,197,500	26.1
流動資産	5,138,220	12.0	5,231,600	12.1	3,850,973	9.0
現金預金	4,882,010	11.4	4,750,283	11.0	3,595,453	8.4
その他	256,210	0.6	481,317	1.1	255,520	0.6
資産合計	42,977,222	100.0	43,090,047	100.0	42,954,132	100.0
固定負債	3,067,784	7.2	3,077,179	7.1	2,786,261	6.5
長期借入金	960,920	2.3	1,003,140	2.3	720,740	1.7
退職給与引当金	2,106,864	4.9	2,074,039	4.8	2,065,521	4.8
流動負債	2,853,986	6.5	3,049,938	7.1	3,016,624	7.1
短期借入金	99,980	0.1	115,780	0.3	88,010	0.2
前受金	2,627,719	6.1	2,707,359	6.3	2,728,194	6.4
その他	126,287	0.3	226,799	0.5	200,420	0.5
基本金	40,088,921	93.4	40,186,959	93.3	40,580,361	94.4
第1号基本金	36,440,758	84.8	36,724,796	85.3	37,172,198	86.5
第2号基本金	844,000	2.1	658,000	1.5	604,000	1.4
第3号基本金	2,363,163	5.5	2,363,163	5.5	2,363,163	5.5
第4号基本金	441,000	1.0	441,000	1.0	441,000	1.0
消費収支差額	△3,033,469	△7.1	△3,224,029	△7.5	△3,429,114	△8.0
負債、基本金及び消費収支差額合計	42,977,222	100.0	43,090,047	100.0	42,954,132	100.0